

勇振温水ため池（コラム まちの貴重な文化財）

読みもの・コラム

投稿者：：

Posted on：2022-6-12 0:00:00

広報ふらの・コラム「まちの貴重な文化財」No.12（最終回）
6月号で紹介するのは「勇振温水ため池」です。



当時最先端の超大型温水ため池



最終回は、昨年の特集で紹介した山部地区の勇振温水ため池です。越流堤階段式の温水ため池は、北海道の農業土木研究者が昭和20年代に改良を重ねて研究開発したものとわかりました。終戦後の食糧増産時代、用水の温度を確保して米を増産し、農家収入の向上を果たすのは国家レベルの研究テーマでした。温水ため池の水温を飛躍的に上昇させるには日光を受ける水の滞留時間を保つこと、水深は深すぎず浅めで、落流する水を空気と接触させ、水中では循環流を作り、温まった表面水を均一に流すように整えれば良いことがわかりました。条件に適した構造を複合して考案され、冷涼な上川地方を中心に普及したのが、ハイブリッド型の越流堤階段式温水ため池でした。昭和33年完工の勇振温水ため池は、最先端の研究成果を盛り込んで設計された、超大型の模範モデルだったのです。☎ 富良野市博物館 ☎ 42-2407

1年間お読みいただき、ありがとうございました。古墳や城、天然記念物の種などはないけれど、この地域としてかけがえのない様々な文化財があることを知ってもらえたのではないかと思います。2021年からはじまった富良野市文化財保護審議会の活動にもご注目ください。